

HSK こころから

55号

2016. 4

助けの
声
を
こ
ろ
に
こ
め
て
送
る
こ
ろ
を
こ
ら
い
な
す
こ
ろ
に
こ
ら
い
な
す
こ
ら
い
な
す



昭和48年1月13日第3種郵便物認可

HSK通巻番号529号

発行 2016年4月10日（毎月10日発行）

編集 住所：札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

団体名：特定非営利活動法人（NPO）

精神障害者を支援する会

TEL：（011）736-1697

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会（HSK）

定価 50円（会費に含む）

活動日誌

2016年2月～2016年3月

* 全体行事

豆まき会 2/2(火)
雪まつり見学 2/10(水)
百人一首大会 2/23(火)
ひな祭りレク 3/1(火)

* ダリアの郷支援センター

全体ミーティング 2/9(火) 3/15(火)
卓球レク (毎週金曜日) 2/5. 12. 19. 26、3/4. 11. 18. 25
ビデオ観賞会 3/22(火)
昭和のカラオケ 3/29(火)
ボールペン習字 2/25(木)、3/10(木)3/24(木)
読み書き勉強会 2/8(月)、3/14(月)
パソコン教室 2/5. 8. 12. 15. 19. 22. 26. 29、3/4. 7. 11. 14. 18. 25. 28

* 共同作業所HAPPY

西区民センターバザー 2/22(月)～2/24(水)
手稲区役所バザー 3/7(月)～3/8(火)

* グループホーム

サポートセンター「和」定期点検 2/19(金)、3/18(金)
【若根荘】 誕生会 2/12(金)、3/25(金)
【ひなた】 誕生会 2/19(金)
【ぽぷら】 雪まつり見学と食事会 2/5(金)

* 会議・学習会

関係者会議 2/13(土)
3.8国際女性デー集会参加 3/8(火)
職員慰労会 3/16(水)

* 関係機関主催行事

新・人間裁判第6回口頭意見陳述 3/23(水)





新年度を迎えて

精神障害者を支援する会専務理事 細川 久美子

4月に入り、夜明けが春の訪れを感じさせる今日この頃に、少し心が暖かくなっていますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

今、自民党、公明党の政権によって行われている国の政治は、「戦争する国作りと弱い者の命を奪う」ことを平然と行うものです。

その上に、自民党議員が次々と起こす不祥事は、傲り高ぶりの何ものでもありません。そのような中で、最低生活を満たすために、生活保護制度を活用してひっそりと暮らしている人たちに対するバッシングが止むことなく浴びせられています。私たちはそのようなバッシングに負けることなく、「新・人間裁判」の旗印の下に団結して闘っています。

2016年5月には、第2次提訴が行われ、新たな人も参加する予定になっています。

「ころから」の読者の皆さん、
社会保障制度を守り、すべての人が平和の中で暮らしていける社会であるために、みんなで心ひとつにして頑張りたいものですね。どうぞ力を貸してください。

新・人間裁判

3月23日(水)、新・人間裁判の第6回口頭弁論の前に地裁前で行われた集会で、原告の井上大朔さんが決意表明を行いました。「保護費削減され友人との食事会の回数を減らさざるを得なくなった。これ以上減額されると健康で文化的な生活などできなくなる。」と訴えました。



新しいメンバーの自己紹介です

ほんまかおひ
本間可人系蔵 さん



ハッピーにはいて
とてもうれしかったです。
たくさんともだちができて
よかったな、と思いました。

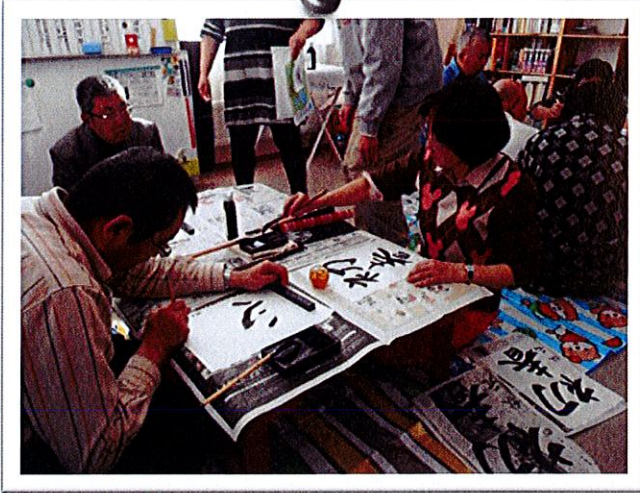
あきひろこ
秋元浩子 さん



アットホームが感じが良..と思..材。
あかりが..事があれば、誰にでも
聞けて良..。
今後ますますお原..します。

「ダリアの郷支援センター」

1月～3月の様子



書き初め



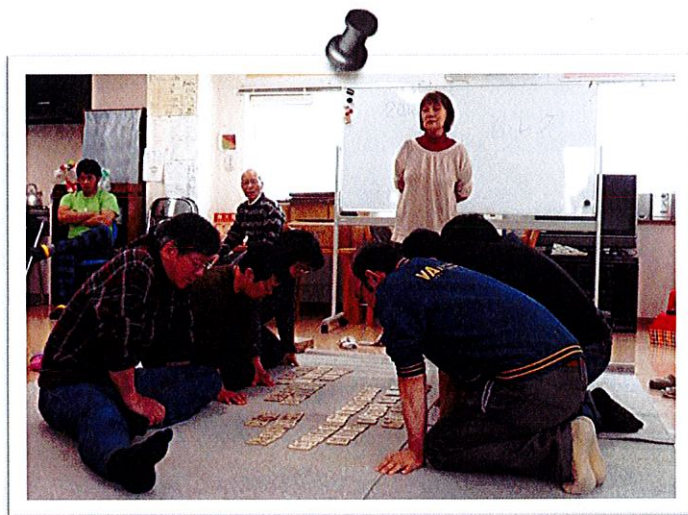
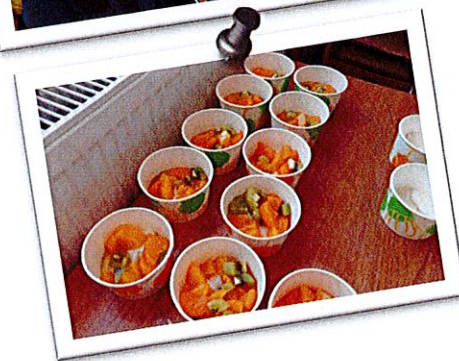
豆まき会



雪まつり見学



全体交流会



百人一首大会



ひなまつりライブ～なおこ BAND～

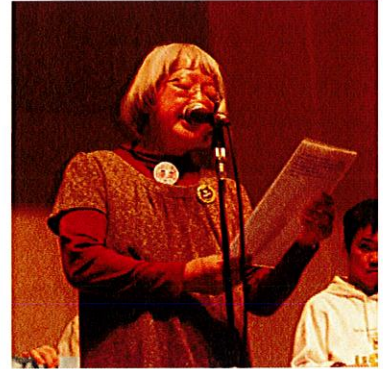
「いのちとくらしを守れ！2.20総決起集会」



ほ っ た み ち こ ほ っ げ ん 堀田美千子さんが発言しました。

こんにちは。精神障害者を支援する会の利用者の堀田美千子です。

1950年、北海道最北端の利尻島で生を受けて、現在66才になりました。19歳の時に統合失調症と診断され、多くの差別の中で入退院も何回も繰り返して生きてきました。自分で自分を差別したこともありましたが、28歳の時に生活と健康を守る会の三浦会長と細川副会長に結び付き、全ての人が私たちが差別や排除をしていないことがわかり、初めて障害者としての出発でした。そして、少しずつ人を信じられるようになりました。



その頃、国際障害者年が政治の流れの中で位置づけられ、札幌でも集会や署名行動などを行ってきました。「私たちは障害者である前に、人間として認めてください」と三越前でチラシを配布したことが昨日のように思い出されます。そのような活動から私たち精神障害者の要求を国や自治体に上げて交渉をしてきました。その甲斐あって、国の法律でも3障害一元化を位置づけられるようになってきましたが、しかし、国や自治体においての実態はそうなっていません。交通費助成や重度医療助成をとって見ても差別のままです。

私は現在、地域で独り暮らしをしています。60才を越えたころから週1回ヘルパーさんに来てもらい、1時間30分の居宅介護という事で掃除などの生活の援助をしてもらっています。昨年65才になった時に、区役所から「65才になったので介護保険の適用になりますので、調査に伺います」と言われ、私は足も腰も今のところ動くし、自分で洗濯もできるので、「介護保険になったとしたらどうなるのか」とヘルパーさんに聞いてみたところ「たぶん支援の時間が減るでしょう」と言われ、とても不安になりました。また、統合失調症という障害故、障害者総合支援法の障害福祉サービスで支援を受けたいと思い、支援する会のスタッフに相談をした所、以前65才になった同じ障害のあった方が障害福祉サービスを利用できた事を教えてもらい、西区役所の担当者に来てもらって状況をお話し、今まで通りのサービスを要請しました。おかげさまで現在も障害者サービスを受けられていますが、「65才原則介護保険」と言われており、私たちの仲間も介護保険に移行させられた人が大勢います。大切なのは、障害者とその障害に寄り添ってもらって当たり前で暮らしていけることこそが「人間として当たり前で暮らす」ことになるのではないのでしょうか。



私は、障害年金と足りない分生活保護を受給しています。その生活保護は3年間に渡って引き下げられ、さらに今年の冬の冬季加算は約3万円近く引き下げられてしまいました。支給するお金だからと国が勝手に引き下げるとは、みんなの暮らしを引き下げていく事になります。だから私は「新・人間裁判」の原告になりました。

皆さん、どうか私たちの味方をして、力を貸して下さい。そのことを強く訴えて終わります。



冬季加算審査請求 口頭意見陳述

伊藤 勇人

北国の生活に欠かせない暖房、灯油代に充てるための生活保護費の冬季加算が二〇一五年の十月から削減されました。これに対し、多くの人が元に戻せと審査請求に立ち上がりました。

その中の一人、伊藤さんの意見陳述です。

私は現在56歳。精神3級で、妻と今年26歳になる娘がいます。

私は高校卒業後、陸上自衛隊に入隊し、21歳の頃に精神の病に倒れました。退官後、上京し就職しましたが、病識が無く、すぐに発病し再入院となりました。すでに親は他界しており、兄弟も余裕がなく、私は生活保護を受けました。身元の引き取り手もなく入院生活が4年経とうとしていましたので、若かった私は、『就職できたなら退院させて欲しい』と院長に訴え、建設会社に就職を決めて退院。まだ収入は少なかったのですが、結婚もしました。

娘も生まれ3年経った頃、精神病が再

発。仕事に就いて7年目でした。約1年

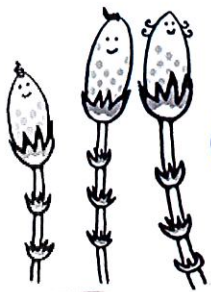
半の入院生活後、妻の勧めで小規模作業所に通所し、病気も安定しました。収入は激減し、傷病手当や児童扶養手当、障害年金など受け、娘の学資保険も解約した後、再び生活保護を受給することになりました。生活保護のお蔭で娘を専門学校に通わせ、社会人として送り出すことができました。この時ほど生活保護制度に感謝したことはありません。

千四百円への減額です。

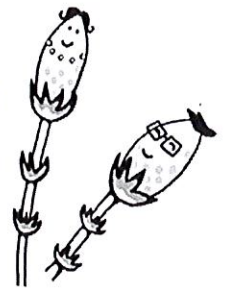
北海道の冬の寒さは厳しいものです。これまでも、寒さを我慢して灯油代を節約してきました。何かあった時の為に加算を蓄えもしてきましたが、それもさせてもらえない。生きていく権利さえ奪われていく気がします。築40年以上経つ古いアパートで、ストーブの設定温度を13度にと極端に下げています。年末に支給される『期末一時扶助』も削減されました。今後は、医療費の窓口負担の話も出ているそうです。今の国のやり方では、生活保護制度自体が無くされそうで心配です。

『健康で文化的な生活』ってどんなものですか。『生きる権利』が欲しいのです。削減は止め、せめて元の生活保護基準に戻して下さい。障害者・低所得者にとって住みやすい、社会保障制度の充実した国になる事を望んでいます。

約12万円が控除の対象となっていたが全廃され、保護費は3年間で全額約5万が削減されました。平成27年度から『住宅扶助』が4万6千円から4万3千円に削減。冬季加算では、ワンシーズン15万円であったのが、12万5



みんなの声



●近況報告です

堀仁

A型作業所に移り掃除の仕事
をしています。介護付き老人ホ
ームの便所・洗面台・食堂の床な
ど、先に入った人を見て祈る気
持ちになる。便所が汚れていな
ければいいな〜とか時間に追わ
れる5ヶ月目の毎日です。

●クリスマス会で

樋口ひとみ

ヒロミさんの飾り付けの指導
を受け、晴美さんと会場を走り
回り飾り付けし、担当の皆で協
力した結果が良い方向に出た
と思います。ヒロミさんと最初で
最後のクリスマス。飾り付けに
賭けた一日でした。最高！

●今後共宜しく

脇川 洋文

私はグループハウス結に入居
しています。早いもので2年が
経過しました。平日は作業所
HAPPYに通っております。バ
ザーや雪まつり等にも積極的に
参加しております。未熟者の私
ですが今後共宜しく。

●所感

小島 修一

グループホームに入居して4
年が過ぎました。当初は団体
生活に困惑もあつたんですが、
皆いい人ばかりで助けられまし
た。ダリアの職員さんにも親切
にしてもらい楽しく毎日を過
すごしています。これからも宜し
くお願いします。



ダリアの仲間と北大を散歩しました。牛がのん
びりしていて、僕ものんびりしました。

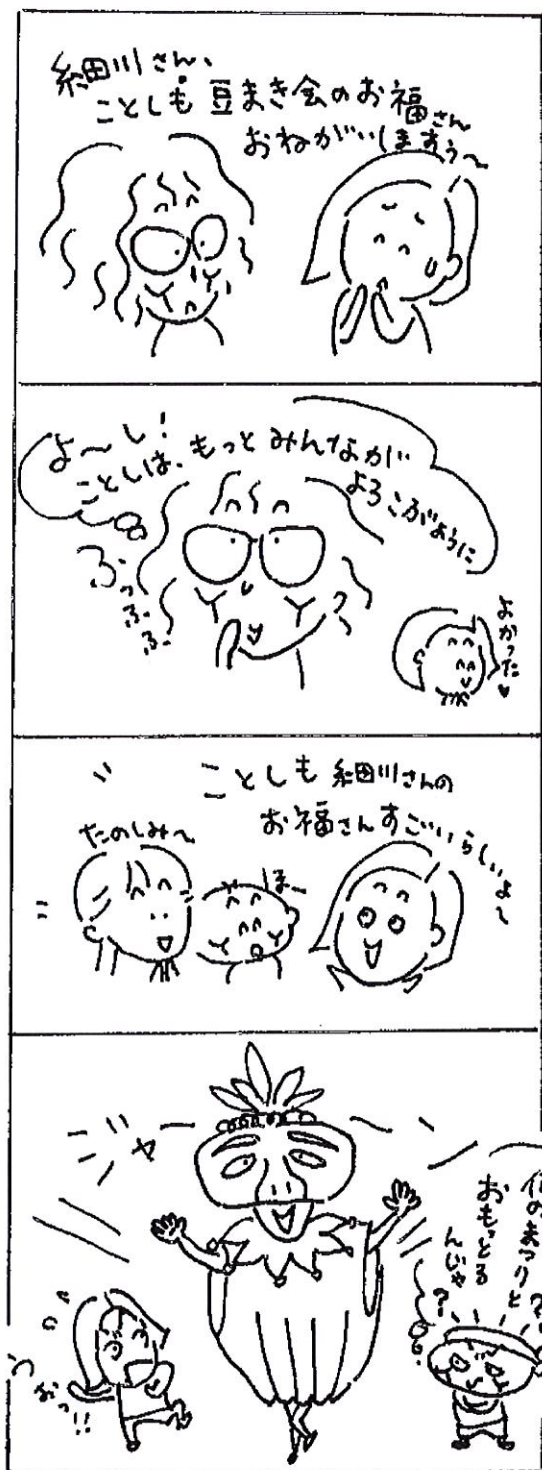
(写真提供：木崎直生)

みなさんの投稿を
おまちしています～

写真や絵、詩な
ども投稿して
ね。



4コマまんが



《寄付金・寄贈品》

当会の活動に対し、ご支援いただき
厚くお礼を申し上げます。

(順不同・敬称略)

<寄付金・寄贈品>

フジモトアキラ整骨院、(有)イブ、高島静子、
伊藤泰子、鈴木博子、伊藤勇人、川端正子、
山本、ホンダ、小西やえ子、ユキタ、我孫子、
上原、内山、浜林、大井久美子、野崎、内田
民江、木村のりこ、工藤禮子

2016.1.21~2016.3.20

〜ご協力のお願い〜

『書き損じハガキ、ありませんか？』

支援する会では「書き損じハガキ」を集
めています。頂いたハガキは、支援する会
の財政活動に使わせて頂きます。

ご協力どうぞ宜しくお願い致します。

HSK ころから

昭和48年1月13日第3種郵便物認可

発行 2016年4月10日(毎月10日発行)

HSK通巻番号529号

編集人

住所: 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18

団体名: 特定非営利活動法人(NPO)精神障害者を支援する会

TEL: (011)736-1697

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

定価 50円(会費に含む)

<編集後記>

新年度、新学期、新入社員などなど。「新」がたくさん付く季節、心も踊るようです。

「ころから」も新しい支援する会の取り組みを、どんどんお伝えしていきます。今回は、様々な場所で自分の状況を赤裸々に語り、訴え、社会保障制度を守ろうと頑張っている仲間が多く登場しました。仲間の代表として、堂々と話す姿にいつも心打たれます。

応援して下さる会員の皆さんにも、仲間の声が届くよう「ころから」の紙面を作りたいと思っています。(藤原)